

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470500513		
法人名	社会福祉法人 気仙沼市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム桑の実		
所在地	宮城県気仙沼市只越346-19		
自己評価作成日	平成 23 年 9 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気仙沼市の北の端、唐桑町福祉の里に保健福祉センター(燦さん館)や特別養護老人ホーム等の各施設が立ち並ぶ中にあり、各施設との交流や地域住民の方々から協力を得ながら日々楽しく生活し、のんびりとした癒しの空間の中で、自然環境にも恵まれて四季折々に楽しめる場所で、地域住民の方々とのふれあいや支え合いが自然と出ています。ボランティア団体の方々のご協力やご支援もあり利用者・職員全員が生き生きと笑顔で暮らせる生活の場となっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りが海と山に囲まれた静かな環境で広い敷地には福祉関係の施設の建物と東日本大震災の仮設が建ち並んでいる。毎年6月の節句には事業所主催の地域交流会が開催され、コスモス会のボランティアの人たちが手伝いに来てくれる。近所の人たちや少年野球のメンバーなど70人が集まり、鯉のぼりや餅つき大会、太鼓の打ちばやし等を披露し、楽しい一日を過ごしている。避難訓練は市や消防署の協力を頂き、地域住民や近隣施設の方も参加し、実施されている。入居者の皆さんは明るく、元気で「くらしの中にわらいあり、のんびり、ゆっくりみんなで…」の理念が着実に根付いている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年10月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム桑の実 )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員全員で考え、独自のものとなっている。利用者の方々が安心して地域で暮らせるように、理念を柱に考え取り組んでいる。	「くらしの中にわらいあり、のんびりゆったりみんなで…」を基本にして理念についてスタッフ会議で話し合っている。1年に1回、ケアの振り返りをし、理念がサービスに生かされているか職員全員で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりを重視し、交流の機会があれば、出来るだけ参加し、地域の活動や行事を通し人々との交流の機会を多く持っている。日常の買い物や散歩の時など近隣の方に会った時は、気軽に挨拶し、コミュニケーションをとって日常的に交流している。	地域の行事には積極的に参加している。毎年6月の節句に地域交流会を開催し、近所の人達や野球チームの子供達、福祉施設関係の人達など70人位が集まり鯉のぼりや太鼓、餅つきなどで盛大に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に増加傾向にある認知症の方の介護に関しては、地域の理解を深めることも重要なことと考え、認知症サポーターキャラバン事業に積極的に参加し地域を中心に一般市民の方にも認知症の正しい理解や支援の方法等に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所から活動や外部評価の報告をし、取り組みについて意見を出していただき話し合いを行い、今後のサービス向上に活かしている。	昨年はお花の先生やボランティアの方を紹介して頂き、生け花を習ったり、牛乳パックで箸置きを作るなどサービスの向上に活かしているが、9月と12月の2回の開催に終わっている。	会議の開催日はイベントの日と合わせ、テーマも年度初めに年間分を決めるなど取り組みやすくし、年6回以上開催し、頂いた意見をサービスの向上に活かすようにしていただきたい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の健康介護課の担当者、保健師と情報交換し、指導監査時や認定調査に訪れた時等、相談したりする機会を持ちホームの実情を伝え協力を頂き良い関係を築くように取り組んでいる。	東日本大震災の後、福祉会館に避難していたので市の職員と一緒にミーティングをしたり、救援物資を取りに行ったりした。また定員超過の優遇措置の補助金請求の説明会に参加するなど市とは良い協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員全員で取り組んでいます。研修会に参加し報告会で周知している。玄関等に施錠はしていません。出ただけ言語による拘束もしないように勤めケアに取り組んでいる。	外出傾向にある方は2名おり、ひとりで出掛けて行きホームの周りを散歩してくるが、見守りや声掛けで対応している。周りは福祉関係の施設が多く見かけると電話で知らせてくれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、職員が正しく認識するように研修会等に積極的に参加し、身体のみならず言語による虐待等も職員間で注意を払っている。研修会に参加した職員は、スタッフ会議で研修内容を報告し、周知を図り虐待防止の徹底に努めている		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関しては、社会福祉協議会で支援している。職員は、地域で行っている講演会や研修会に出来るだけ参加し、学ぶ機会を持つよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約を結ぶ際、入居者及び家族には、重要事項説明書を基に十分な説明をするとともに不安な点・疑問点については、分かりやすく安心していただけるように理解・納得を図っている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、管理者や職員に対して自由になんでも言える雰囲気づくりをしている。意見・不満・苦情等があれば、なんでも言っていただき、直ぐに検討し改善するようにして運営に反映している。	家族が訪問した時に意見を聞いている。「自分で着る物の調節が出来なくなったのでホームで着せてほしい」などの要望がある。また事業所以外の外部にも意見や要望を表せる場があることを話している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員の意見や提案については、その都度聞くように努め、月1回定期的にスタッフ会議で議題を検討し改善に勤め運営に反映させている。	職員の提案で年間の行事計画を決めたり、誕生日のプレゼントをその人が必要としているものに決めている。ケアをする際も体調に合わせ電動ベッドやエアマットを使用するなどサービスの質の向上に活かしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境について、代表者は常に職員の努力や実績を把握し、職場環境の整備に勤め、職員がやりがいや向上心を持って働ける職場環境に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、法人内外の職員研修や資格の習得には積極的に推進している。研修会等の機会があれば参加することを進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	気仙沼介護サービス連絡協議会に加盟して、年に数回開催している研修会・勉強会に参加。相互のイベント等に参加したり活動を通し他ホームと交流の機会を持ち、サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人と関わりを持つ方からの意見も参考にし、本人の要望、困っていることや不安に思うこと等を聞く機会を持ち、出来るだけ本人の思いに添うようにし関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がホームを見学に来た時には、今の現状や困りごとや不安なこと、求めていること等をよく聴き本人の生活状況を自宅に出向き確認したり、信頼関係を築くようにして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今、どのようにしてほしいかを伺い、どうしたら本人にとって一番良いのか検討し、本人と家族が安心できる対応・支援を見極め、他のサービスも視野に入れ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の得意なことや興味のあること等を日々の生活の中や会話を通し知ること、共に活動したり教えられたりしている。又、常に感謝の気持ちを持ち、言葉や態度に出すようにし支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の時には、連絡事項だけでなく本人の現状報告や家族の悩み・希望等を良く聴き受け止めるように対応。又、ホーム側からも相談したりすることで、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で、馴染みの人や場所を訪ねたり、会話の中に話題として出すことで記憶に残したりし馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や友達が会いに来てくれたり、同級生が震災の見舞金を持ってきてくれた。また行きつけの床屋さんでお茶のみをして来るなど、付き合いがいつまでも続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の支え合いまでは難しい状況だが、利用者同士の関係やその時どきの雰囲気や困気をスタッフが理解して、仲に入って橋渡しをしたり、時に離れて見守りしていい関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、顔を合わせた時には、気軽に挨拶したり近況を聞いたりし気軽に声を掛け合ったり、必要に応じ相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を受け入れ、その意見をスタッフ会議等で検討し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望に添うように本人本位に検討している。	職員の対応が気に合わないと表情にあらわす方がいる。大声を出すので何が悪かったのか全員で話し合い、その要因を見つけ出して、入居者の立場に立った対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、生活歴やこれまでの暮らし方を聴いて、生活環境が極端に変わることがないように把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状把握について、一日の過ごし方を生活記録にまとめ、連絡ノートを活用し職員間で把握、身体状態においては、バイタルチェック表を記入することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族と話し合いを持ち、情報・意見を取り入れ、個別に介護計画を作成している。職員がモニタリングを重ね、家族や関係者の面会時等に、意見や要望を聞いて新たな介護計画に反映し作成している。	3ヶ月に1回、評価に基づいて定期的に見直しをするほか、入居者のケアに関する会議が月1回あるので状態に変化のある入居者は、みんなで情報を出し合い見直しをし、家族の同意を得て渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活の様子を生活記録に記入し、日勤者と夜勤者共に、引き継ぎの時に利用者、一人ひとりを具体的に情報の申し送り共有して職員全員で実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの生活を支えるために事業所以外の施設や市役所の機能を生かしたサービスを出来るだけ取り込むようしている。介護用品の使用や言語訓練等をうまく活用できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1～2回、ボランティア(コスモス会)が来て、会話、工作、手芸、調理や畑作業と一緒に手伝ってくれる。又、広報誌を地区の担当者が利用者一人ひとりに届けてくれている。必要に応じ地域の方の協力を頂き、暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方々全員、かかりつけ医を受診している。必要に応じて、歯科、眼科等本人の意向で受診している。受診の際は、バイタル表に本人の状態を記入した書類を渡して適切な医療を受けられる支援をしている。	本人家族が希望するかかりつけ医を受診している。緊急時には電話で入居者の状態を看護師に話し、適切な医療を受けられるよう支援している。また、インフルエンザの予防注射は協力医にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師、1名が職員として常勤している。利用者が体調不良を起こした時等は直ぐに適切な処置・対応を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時や退院時は、看護師が病院に行き、入院までの経緯の説明をしたり、医師より注意点を聴いて情報交換や相談に勤め、今後の為に病院との良い関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した時や終末期のあり方については、家族に事業所として出来ることを十分説明し、医療行為が必要な時は、すぐ家族と連絡を取り、医師等と話し合いを持ち、今後の対応を決め出来るだけ要望に副うように支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の対応については、早期から本人や家族、医師と話し合いを行い方針の統一を図り、事業所が対応できるケアについて説明しているが、重度化や終末期に対する指針が成文化されていない。	重度化や終末期に対する指針を成文化し、それに基づいて本人や家族、医師と早い段階から話し合い、事業所が対応できるケアについて説明し、思いを共有し支援していただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行ってはいないが、消防署に普通救命講習を受講し、応急手当や救命技能の維持向上のため反復して講習を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所では、年2回防災訓練を実施。市や消防署の協力を頂き、地域住民や近隣施設参加の訓練も実施している。地域住民には、ホームの現状説明を行い協力体制を築いている。	避難訓練には近所の人20～30人に声掛けし、参加して頂いている。また、避難通路の確認や消火器、火災報知器、スプリンクラー等の設備点検、備蓄の確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員で、一人ひとりを尊重し、呼び方や対応に心がけている。一人ひとりの居室に入る際には本人の了解を得て出入りするようになりプライバシーを損ねない対応をしている。	入居者の話には耳を傾け否定しない、話しかけるときは正面から話しかけ、状況に応じその人に合わせた対応をしている。何かをしてくれた時は「ありがとう」の言葉を忘れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、思いや希望を表した時には傾聴し、出来るだけ思いをかなえられるように支援している。言葉で表せない方は、職員がいくつかの選択肢を用意し選んでいただいたり、ゆっくり考えていただき自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人、一人ひとりのペースを大切に、起床・入浴・食事時間等を支援している。職員が強制するのではなく、散歩や買い物等も本人の希望があれば一緒に出かけられるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に協力を得ながら、本人の馴染みの店に行って服装品を買い物したり、訪問美容や床屋をしたり、その人らしく装いをして清潔感のある生活を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に、買い出し、調理、食事、片づけ等行い、楽しく食事をする雰囲気作りを心掛けている。一人ひとりにあった食べやすいようにメニューも工夫を凝らしている。(食事量・味付け・きざみ食・お粥等)	お煮しめを作る時など教えて頂いている。またメニューについては市の健康増進課で勉強会をしたり、年2回以上市の栄養士に相談をしている。食事が楽しくなるように旬の食材で色取りや盛り付けに気を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成し、年に数回、市の管理栄養士に栄養のバランスや食事量等の相談し調整している。水分量は、チェック表に記入し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ケアは、自分で歯磨きができる方については、声掛けし見守り、麻痺があり介助が必要な方には職員が支援している。夜、寝る前に入れ歯をポリドントにつけ清潔保持に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録して失敗しないように声掛けしトイレ誘導する等、自立に向け支援している。	入居者一人ひとりの状態にあった声掛け、習慣づけでリハビリパンツから普通のパンツになった方が4人いる。また、夜は部屋にポータブルトイレを置いて、昼はトイレで排泄するよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者によっては、病院から便秘薬の処方を受けている方もいて、排泄の状態を見て服薬調整したり、おやつにヨーグルトを提供、水分や食事(野菜を多く)の面にも配慮し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの意見を尊重して、入浴温度、入浴の順番、時間帯、洗髪、洗身の仕方等に配慮し、体調に注意し入浴を楽しんでもらえるように職員と、コミュニケーションをとりながらの入浴支援を心掛けている。	毎日好きな時間に入浴ができるが午後から入浴している人が多い。入浴中は職員と子供の話や世間話をしながら入浴を楽しんでいる。拒む人には「一番風呂だから温まるよ」などと話して勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人になる不安を解消できるように、居室に付き添ってあげたり、家族の協力を頂き、電話で会話していただき、安心して眠れるよう支援している。又、テレビを観ながら休んでもらったり、豆電球をつけたりし眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前・食後・一人ひとりタイミングを見ながら与薬している。夜勤者は、薬をセットし与薬を担当職員が薬を確認し服薬している。服薬後は、チェック表に記入し飲み忘れが無いよう配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味(読書・カラオケ等)や特技(料理・裁縫・箱作り等)を中心に活動を支援。その際、昔の事等かいわに交え回想しながら、共に楽しみや喜びを分かち合うようにし、ドライブ等で昔懐かしい場所に出かけ気分転換を図ったりし支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に副い、馴染みの店に買物に出かけたり、ほぼ毎日何人かとドライブ出かける機会を持ち、希望があれば家族や地域の方とも協力し、お花見や紅葉を見に出かけたりし支援している。	天気の良い日は全員で近くの東屋へ散歩したり、ドライブで御崎神社や陸前高田市まで出掛けている。家族との外出や墓参りなど特別な外出支援は柔軟に対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫に、小遣いを預かり、いつでも必要な物やたべたい物の希望があれば、本人の力に応じ財布を渡し職員と共にお店に出かけ、買いたいものを選んだり支払いを支援したり、お金の大切さや買い物楽しさを感じていただき支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望し、家族との会話を望む時には、いつでも電話で家族と会話できることを伝えたり、掛けてあげたりし支援している。手紙については、思うように書くことが出来ず支援はしているが、年々出来なくなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間をかていてきて、見慣れた物や使い馴染んでいるものを使用し生活館・季節感を考え居心地の良い空間づくりの工夫をしている。	広い食堂は日当たりがよく、明るく、換気が行われ臭気や空気のよどみがない。適切な大きさの時計とカレンダーが見やすい場所に設置されている。玄関には庭から切ってきたコスモスの花が飾られ季節を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を、何ヶ所か設置し、椅子を置く等、少人数で過ごせる空間を配置している。相談室を利用者に開放し一人や気の合う方々が少人数で過ごせるように居場所の工夫している。ホーム外にもベンチを置くなど外で季節を感じてもらえるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族にも相談し、入居以前に使用していた家具類をはじめ、身近なものを準備していただき居室に配備し、画一的な居室にならないよう、居心地良く過ごせる工夫をしている。	入居時家族には馴染みのものを持って来るようお願いしている。部屋にはタンスやベット、孫がもってきた人形などが置かれ、壁には職員と一緒に作った押し花や家族の写真などが貼られ居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの力量に合わせ、各居室内に手摺りを設置したりし、安全に暮らせる工夫をしている。トイレや浴室、居室は分かりやすいよう表示方法を工夫し、自立した生活が送れるように勤めている。		